

どろかされる。

行けども行けども、巨大な彫刻の壁は続く。バスの中から右に左、左に右にと回転よろしく首と目玉の体操をしたが、この時ばかりは2本の足で歩きたかつた。

途中、巨大な岩間より落下する雄々しい流星の滝、しおらしく流れ落ちる銀河の滝に見つけた。次いで大函。

平地から垂直にそそり立つ岩壁に包まれたここは、大きな箱の底に居る様であるところから大函というのであろうか。岩の色のしぶさがとても印象的であつた。

小函を通り、しばらくはバスの中、途中、美幌で昼食をすませ、一路網走へ。

旅行中では最も北の、刑務所で知られた網走にやつて来た。お天気の方は夏らしい青さが見え出した。

広い草原には牛や馬が放たれ、乾そうした快よい気候である。牧歌的などかさとは、この事かと思つた。しばらくすると左手に青く光つた海が見えてきた。今までの緑の匂いとは別に青い湖の香りである。海岸づたいにバスは走る。そして、今は満開も終りをつけた浜なすの咲く原生花園についた。

原生花園の後には、オホーツク海が空に向つて広々と開けている。

力強くおしよせる砂浜の波に足を洗い、貝を拾い、遠く見知らぬ国の香を包んで吹いてくる（と思われる）快よい潮風に旅の疲れをいやした。再びバスに乗り込み、今来た道をひきかえし、途中、夕暮れの天都山に登り、網走湖への帰路を急いだ。

層雲峡から美幌，原生花園，天都山を経て網走へ

大 食 3

7月20日

今日まであまりお天気に恵まれなかつたが、昨夜作つたてる坊主のお蔭か、今日は割合よく晴れている。午前9時、昨晚先生方と童心にかえつて大いに騒いだ層雲閣を出發。

今日は、美しい景色が多いコースなので楽しみである。しかし左右に移り変わる断崖とガ

イド嬢の説明に、右よ、左よと首ふり人形の如く、口をあき、目をきよろきよる。「バスの屋根がなかつたらなあ」とは無理な話しのようヨ。この苦痛に耐えている顔をパチリ、パチリと写されてガツクリ。だが、美しい滝と木々の緑は、私達を充分満足させてくれた。石北峠に着くとあたり一面の霧。じやがいも、いか、とうもろこしを焼いている何ともいえず香ばしい臭いが鼻をくすぐる。短い休憩時間の間にと必死の形相。しかし「臭いの割には……ネ。」

間もなく美幌。ここでクラス・メートに会い、とてもなつかしく、うれしく感じた。昼食の後、バスはオホーツク海を見ながら原生花園へ。見事に晴れ上つた空、岩つばめの巢を見、海を左に、ふと前を見ると知床半島の山々がくつきりと浮んでいる。全く何と形容したらいいのか、バスの中は一しきり歓喜の声がおこつた。てるてる坊主はテルテル様と格が上り、夜は「オミキ」を上ることに相成るのである。広々とした原野に牛や馬が遊び、彼方には、知床の山々、そしてオホーツクの海なりの音、数々の美しい素朴な、そして文字通り華やかな花々。この上もなく満足。それから、文部省指定とやらの天都山展望台へ。確かにすばらしい眺めではあるが、先の印象が強烈だつたので感激が薄れてしまった。

5時頃、網走湖畔の旅館着。夕食は待望のケガニ。夕食後、各自ボートに乗つたり、散歩したり。夜は先生方の部屋にお招きを受け、雑談とゲームを少々。

網走 → 弟子屈

短食 2ノ1

北海道入りして早くも5日目。空は晴れて気持の良い天気だが、涼しいのを通り越して幾分肌寒さを感じる。さすがは北海道だと1人で感心したりした。ガイドさんにたずねてみると、今年は例年より気温が低いとの事、旅行もこれ程涼しいと楽だと思つた。

6時50分に起床して、広間で朝食を取り、我先にとバスに乗り込んで、8時30分には網走湖荘の人々に別れを告げ、美幌峠に向つた。バスの旅も今日で4日目。メンバーも変わらず、ガイドさんとも顔馴染みになつて、皆和気合々。歌を歌つたり、おしゃべりをしたり、疲れも見せず、ガイドさんの案内の声に合わせて顔を右に向けたり左に向けたり、女